

Ⅲ 基本方針Ⅱ 循環型社会の形成

1 環境基本計画における取組

市では、平成 31(2019)年 4 月から実施している家庭ごみ有料化及び戸別収集など、廃棄物の発生抑制を最優先に掲げた施策を実施するとともに、生ごみを食物資源として循環させる事業や全量プラスチック製容器包装の分別収集・資源化、事業系ごみの排出指導、新たな分別収集・資源化の検討など、さまざまな課題について取り組んでいます。

循環型社会の形成に向けては、資源とごみの総量の抑制に取り組み、総量を抑制してもなお発生するものについては、資源としての循環利用を徹底して環境負荷を低減し、それでも残る廃棄物については、適正な処分に努めています。

令和 4(2022)年度の市民一人 1 日あたりのごみ・資源物の総量は (654.4 g/人日) となり、令和 3(2021)年度 (674.2 g/人日) と比較するとマイナス 19.8 g/人日、マイナス 2.9%の減少となりました。

数値目標	基準値(2021)	現状値(2022)	目標値(毎年度)
市民一人 1 日あたりごみ・資源物総量の抑制	674.2 g/人日 [※]	654.4 g/人日 (前年度比△2.9%)	前年度比減

※「小平市第四次一般廃棄物処理基本計画」における排出物原単位

(1) 廃棄物の発生抑制（リデュース）

循環型社会の形成に向けて、まずは、廃棄物を発生させないことが肝要であり、市民・事業者の意識改革を促すとともに、食品ロスの削減やプラスチックごみなどの減量への取組を強化しています。

(主な取組)

- ・食品ロス削減推進計画の策定
- ・ペーパーレス化の推進
- ・小売り販売や梱包材削減の推進

数値目標	2019 年度	2021 年度	目標値(2030)
燃やすごみに含まれる可燃性資源 (雑がみ、雑誌など) の抑制	12.8%	11.1%	10%

※ごみ組成分析調査については、2 年に 1 度実施している。

(2) 市としての取組

市では、平成 31(2019)年 4 月に分別方法の変更を行い、プラスチック製容器包装の全量資源化に努めています。また、リサイクルきやらばんなどの活動も行っています。

今後も、様々な品目でリユース・リサイクルに努めるとともに、学習機能を備えたリサイクルセンターやごみ分別アプリなどのツールを活用し、啓発を行い、分別や資源化の徹底を推進していきます。

(主な取組)

- ・ごみ分別アプリの活用
- ・リサイクルの促進 (図書、小型家電、陶磁器食器、剪定枝等)
- ・リユースサイト (ジモティーなど) の利用促進(家具、子育て用品等)



食物資源回収用バケツ



ごみ分別アプリ

数値目標	前年度（2021）	現状値（2022）	目標値(毎年度)
資源物行政回収量の抑制※	11,542 t	11,251t (前年度比△2.5%)	毎年度比減

※生産・販売だけでなく廃棄以降の段階まで関わる責任（拡大生産者責任）の考え方を踏まえ、事業者の店頭回収等を推進することにより、廃棄物の発生抑制やリサイクルを促進し、さらに行政回収量を抑制する。

(3) 適正処理の維持・向上

市では、平成 31(2019)年 4 月から家庭ごみ有料化及び戸別収集へ移行するとともに、新リサイクルセンターを開設しました。

小平・村山・大和衛生組合では、同時期に新設のプラスチック製容器包装・ペットボトルの中間処理施設(エコプラザ スリーハーモニー)が稼働しました。

また、令和 2(2020)年 4 月から新不燃・粗大ごみ処理施設が稼働し、現在、令和 7(2025)年度の稼働に向けて、(仮称)新ごみ焼却施設の整備を進めています。

引き続き、新ごみ焼却施設の整備を着実に進めるとともに、家庭・事業者からの廃棄物の適正排出の指導に努めていきます。

2 清掃事業の概要

(1) 循環型社会の形成に向けた取組

ごみの問題は、今や環境問題として社会的に深刻であり、重要な行政課題となっています。また、資源の保護や環境保全の面からも重要な課題です。少しでもごみを減らすために、市民・事業者・行政が連携し懸命になって取り組んでいく必要があります。

従来の大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会構造は、私たちに多くの恩恵をもたらす一方で、生産、流通、消費、そして廃棄物処理の各過程において多くの資源・エネルギーを消費し、多大な環境負荷を生じさせています。

小平市では市民と事業者の協力の下、資源の分別収集を市内全域で実施し、リサイクル率を高めてきました。

また、小平市は、平成 31(2019)年 4 月 1 日に実施した家庭ごみ有料化及び戸別収集など、廃棄物の発生抑制を最優先に掲げた施策を実施するとともに、生ごみを食物資源として循環させる事業や全量プラスチック製容器包装の分別収集・資源化、事業系ごみの排出指導、新たな分別収集・資源化の検討など、さまざまな課題について取り組んでいます。

これらの課題への取組をさらに進めるために、廃棄物の減量と処理に係る事業の根幹となるものとして、令和 5(2023)年 3 月に「小平市第四次一般廃棄物処理基本計画」を策定し、さらなる循環型社会の形成に向けた取組を行います。

(2) 清掃費の推移

①清掃費財源の年度別推移（決算額）

令和 4(2022)年度の清掃費は、小平・村山・大和衛生組合及び東京たま広域資源循環組合の負担金の減や、リサイクルセンター更新事業の終了により減少しています。

【清掃費財源の年度別推移（決算額）】 (単位：千円)

年度	一般財源	ごみ処理 手数料	し尿処理 手数料	国・都 補助金	基金 繰入金	その他	合計
2018	2,779,299	171,975	7,794	421,778	235,141	819,300	4,435,287
2019	1,778,742	714,061	10,583	692,590	178,809	42,415	3,417,200
2020	2,207,440	663,355	6,529	405,076	210,876	51,545	3,544,821
2021	1,822,494	665,164	7,475	701,690	222,809	91,094	3,510,725
2022	2,014,624	645,615	6,845	692,800	0	1,455	3,361,339

※端数処理のため、誤差が生じることがあります。

【ごみ減量・リサイクル推進基金への積立額の推移】 (単位：千円)

年度	積立額	年度末 現在額
2018	159,419	393,089
2019	126,579	346,859
2020	95,317	231,564
2021	134,136	143,268
2022	179,803	323,278

②清掃費の年度別推移（決算額）

（単位：千円）

年度	総務費		塵芥処理費		し尿処理費		資源循環 推進費		歳出額合計	
	決算額	%	決算額	%	決算額	%	決算額	%	決算額	%
2018	153,862	3.5	2,396,106	54.0	54,533	1.2	1,830,786	41.3	4,435,287	100.0
2019	121,214	3.5	2,650,319	77.6	54,738	1.6	590,929	17.3	3,417,200	100.0
2020	104,655	3.0	2,790,228	78.7	54,419	1.5	595,519	16.8	3,544,821	100.0
2021	105,130	3.0	2,717,043	77.4	52,013	1.5	636,539	18.1	3,510,725	100.0
2022	104,753	3.1	2,680,103	79.7	49,079	1.5	527,404	15.7	3,361,339	100.0

※端数処理のため、誤差が生じることがあります。

③令和5（2023）年度予算額

一般会計総予算額	77,990,000千円
清掃費総予算額	3,551,559千円
一般会計に対する割合	4.6%

注) 当初予算ベース

④一部事務組合分担金・負担金の年度別推移

（単位：千円）

年度	小平・村山・大和 衛生組合	東京たま広域 資源循環組合	湖南衛生組合
2019	987,478	499,047	28,158
2020	1,167,505	466,309	27,910
2021	1,186,918	377,284	25,336
2022	1,156,654	355,791	22,659
2023	1,260,576	361,127	18,259

⑤令和4(2022)年度ごみ処理にかかる決算状況

歳入

清掃手数料(家庭系廃棄物処理)※1	482,724,840円
清掃手数料(事業系一般廃棄物処理)※2	52,371,900円
清掃手数料(塵芥処理)※3	149,428,470円
清掃手数料(し尿処理、浄化槽汚泥処理)	6,845,150円
資源回収売払金	148,604,812円
その他(許可申請手数料、指定収集袋広告収入など)	855,335円
計	840,830,507円

※1 家庭系指定収集袋

※2 事業系指定収集袋

※3 事業系持込、臨時収集、粗大ごみシール

歳出

指定収集袋等販売手数料	51,723,595円
指定収集袋等製造・管理等業務委託	153,056,992円
ごみ収集運搬業務委託	824,457,700円
資源物収集運搬業務委託	351,527,000円
し尿収集運搬業務委託	26,420,476円
粗大ごみ等収集運搬、受付業務委託及びシステム等賃貸借	65,258,424円
資源回収団体補助	13,375,813円
食物資源循環業務委託	12,876,886円
小平市リサイクルセンター長期包括運營業務委託	122,596,862円
小平・村山・大和衛生組合分担金	1,156,654,000円
東京たま広域資源循環組合負担金	355,791,000円
湖南衛生組合分担金	22,659,000円
その他(職員人件費、物品購入費、各種委託費など)	204,941,601円
計	3,361,339,349円

⑥ごみ処理量と資源化量の推移

品目	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度				
①人口(人)	193,588		194,941		195,207		195,014		196,543				
②燃やすごみ	年間排出量(t)	収集 持込	合計	29,414	33,685	26,804	30,922	28,129	31,962	27,596	31,644	27,053	31,147
	一人1日あたり排出量(g)	476.7		433.4		448.6		444.6		434.2			
	対前年比(%)	2.3%		-8.2%		3.4%		-1.0%		-1.6%			
③燃やさないごみ	年間排出量(t)	収集 持込	合計	5,377	5,598	1,409	1,467	1,780	1,818	1,629	1,663	1,549	1,576
	一人1日あたり排出量(g)	79.2		20.6		25.5		23.4		22.0			
	対前年比(%)	22.1%		-73.8%		23.9%		-8.5%		-5.2%			
④粗大ごみ	年間排出量(t)	収集 持込	合計	1,267	1,318	1,137	1,199	1,403	1,436	1,348	1,374	1,263	1,269
	一人1日あたり排出量(g)	18.7		16.8		20.2		19.3		17.7			
	対前年比(%)	22.2%		-9.0%		19.8%		-4.3%		-7.6%			
⑤ごみ処理量合計(②+③+④)	年間排出量(t)	収集 持込	合計	36,058	40,601	29,350	33,588	31,312	35,216	30,573	34,681	29,865	33,992
	一人1日あたり排出量(g)	574.6		470.8		494.3		487.2		473.8			
	対前年比(%)	5.2%		-17.3%		4.8%		-1.5%		-2.0%			
⑥資源(行政回収)	ビン(t)	1,282		1,169		1,320		1,280		1,213			
	カン(t)	484		442		497		476		460			
	紙類(t)	収集 持込	合計	5,854	5,877	5,782	5,795	6,212	6,232	5,974	5,993	5,847	5,861
	古布・ふとん(t)	1,138		854		1,033		952		895			
	紙パック(t)	7		8		4		7		7			
	白色トレイ(t)	2		0		0		0		0			
	ペットボトル(t)	669		453		496		484		507			
	プラスチック製容器包装(t)	745		1,754		1,894		1,888		1,866			
	金属類(t)	113		139		165		157		145			
	剪定枝(t)	86		3		4		17		12			
	生ごみ一次処理物(t)	30		24		18		23		22			
	食物資源(生ごみ)(t)	71		82		93		91		86			
	キャップ(t)	9		1		0		0		0			
	陶磁器(t)	6		14		18		11		14			
	スプレー・ガス缶(t)	35		39		44		43		43			
	ライター(t)	2		3		3		3		2			
	小型家電(t)	6		8		8		7		6			
⑦資源(優良粗大ごみ)(t)	26		31		36		41		45				
⑧資源(有害性資源)(t)	71		60		77		69		67				
⑨資源(集団回収)(t)	2,042		2,179		1,932		1,769		1,700				
⑩資源化量合計(⑥+⑦+⑧+⑨)	年間排出量(t)	収集 持込	合計	12,678	12,701	13,045	13,058	13,854	13,874	13,292	13,311	12,937	12,951
	一人1日あたり排出量(g)	179.7		183.0		194.7		187.0		180.5			
	対前年比(%)	7.9%		2.8%		6.2%		-4.1%		-2.7%			
⑪廃棄物総量(⑤+⑩)	年間排出量(t)	収集 持込	合計	48,736	53,302	42,395	46,646	45,166	49,090	43,865	47,992	42,802	46,943
	一人1日あたり排出量(g)	754.3		653.8		689.0		674.2		654.4			
	対前年比(%)	5.8%		-12.5%		5.2%		-2.2%		-2.2%			
⑫資源化率(%)	23.8%		28.0%		28.3%		27.7%		27.6%				
⑬組合資源化量(t)	1,300		801		2,390		2,335		2,035				
⑭総資源化率(%)	26.3%		29.7%		33.1%		32.6%		31.9%				

※人口は、毎年度末(3月31日時点)です。

※1日あたりの排出量は、年間排出量を年間で日数で除したものです。

※資源化量合計、廃棄物総量及び資源化率には、組合資源化量を含みません。

※廃棄物総量はごみ処理量合計と資源化量合計の合計となります。

※資源化量合計には、協力店で回収(拠点回収)した資源(紙パック、白色トレイ)を含みません。

※資源化率=資源化量合計/ごみ処理量合計

※総資源化率=(資源化量合計+組合資源化量)/ごみ総量

※端数処理のため、誤差が生じることがあります。

※紙類とは、新聞紙、雑誌・雑がみ、段ボール、シュレッダーくずのことです。

※組合資源化量は、燃やすごみ、燃やさないごみから選別等を行い、3市の合計から按分したものです。

※行政回収量は、拠点回収量を含みます。

平成 31(2019)年 4 月に実施した家庭ごみの有料化により、令和元(2019)年度のごみ量は大きく減少しましたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大によって、ステイホームなどの新たな生活様式が広がり、令和 2(2020)年度のごみ量は増加に転じました。その後、新型コロナウイルス感染症の状況に落ち着きが見え始め、コロナ禍以前の生活を取り戻しはじめた令和 3(2021)年度には、ごみ量は再び減少に転じ、さらに令和 4(2022)年度も減少傾向が続いています。

<参考>

【小平市一般廃棄物処理基本計画 数値目標の推移】

年度	2018	2019	2020	2021	2022	前計画目標値 2022年度
排出物原単位 (g/人日)	754.3	653.8	689.0	674.2	654.4	640.0g/人日
処理ごみ量 原単位(g/人日)	574.6	470.8	494.3	487.2	473.8	480.0g/人日
収集ごみ量 原単位(g/人日)	510.3	411.4	439.4	429.5	416.3	モニター指標 (毎年度)
持込ごみ量 (t/年)	4,542	4,239	3,905	4,107	4,127	モニター指標 (毎年度)
収集時リサイクル 率(%)	23.8	28.0	28.3	27.7	27.6	モニター指標 (毎年度)
最終処分量 (t/年)	4,736	3,927	3,396	3,371	3,333	モニター指標 (毎年度)

※2022年度の目標値は前計画のものであります。

排出物原単位は、市が処理に関与する廃棄物を市民一人、1日当たりの量に換算したもので、発生抑制がどのくらい図られているかがわかる指標となります。一人1日当たりの排出量が小さくなるほど、発生抑制が図られたといえます。

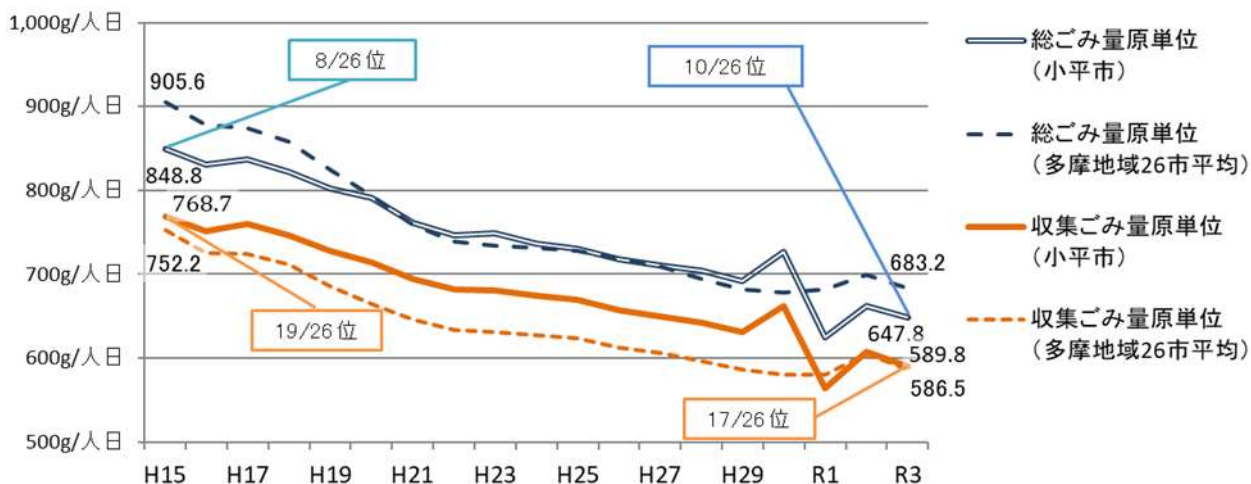
前計画の最終年度となる、令和 4(2022)年度の目標値は、市民一人1日当たり 640.0 g と設定しています。令和 4(2022)年度の実績は 654.4 g で、目標値の達成はできなかったものの、前年度と比較して、19.8 g、約 2.9%減となっています。

また、処理ごみ量原単位は、ごみ・資源物総量のうち、ごみのみの量を市民一人1日当たりに換算したもので、ごみの発生抑制とともに、資源化品目の拡大と分別の徹底の効果を計る指標となります。

令和 4(2022)年度の目標値は、市民一人1日当たり 480.0g と設定しています。令和 4(2022)年度の実績は 473.8 g で、目標値を達成しており、前年度と比較して、13.4 g、約 2.8%減となっています。

<参考>

【小平市と多摩地域 26 市平均との比較】



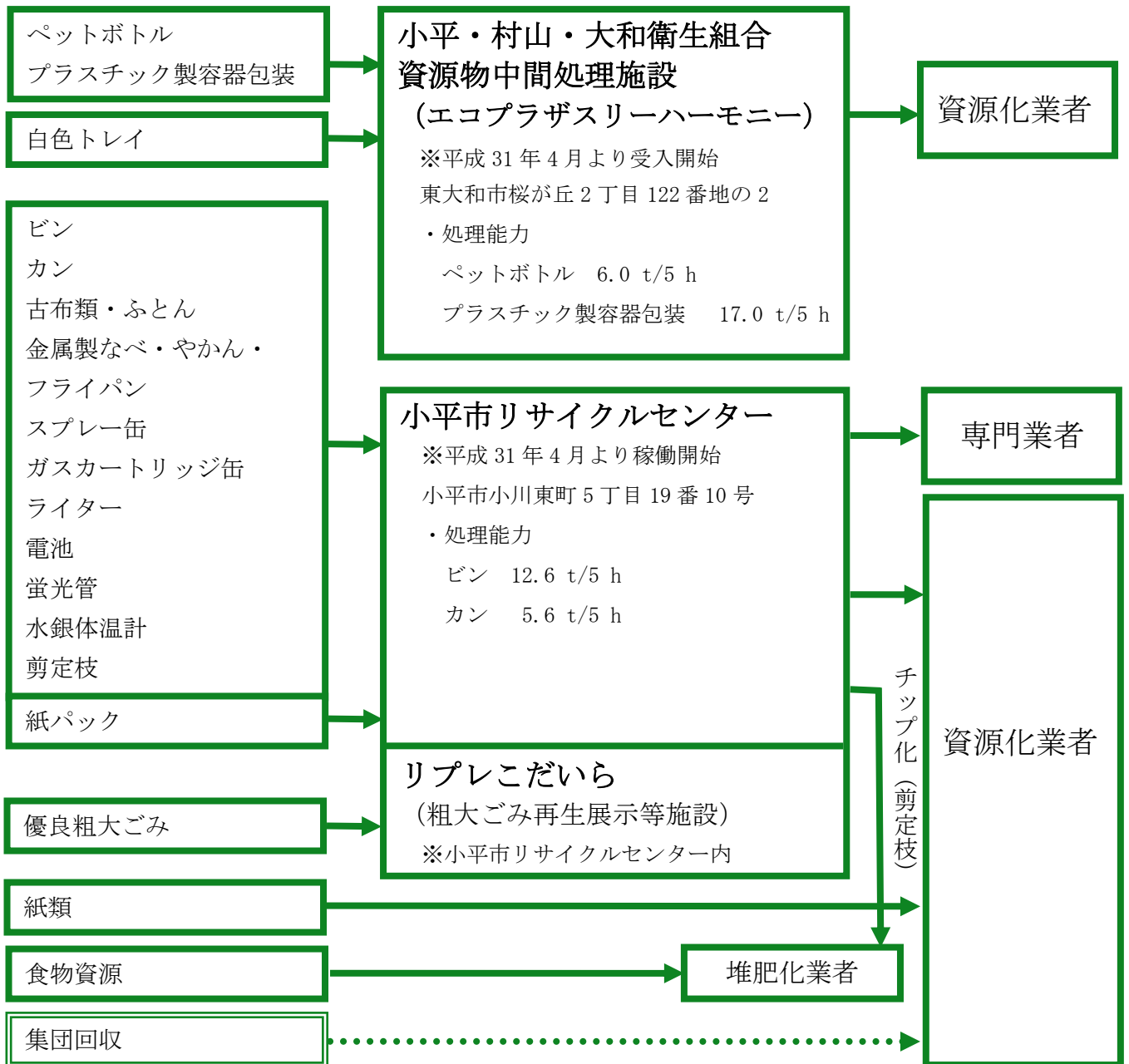
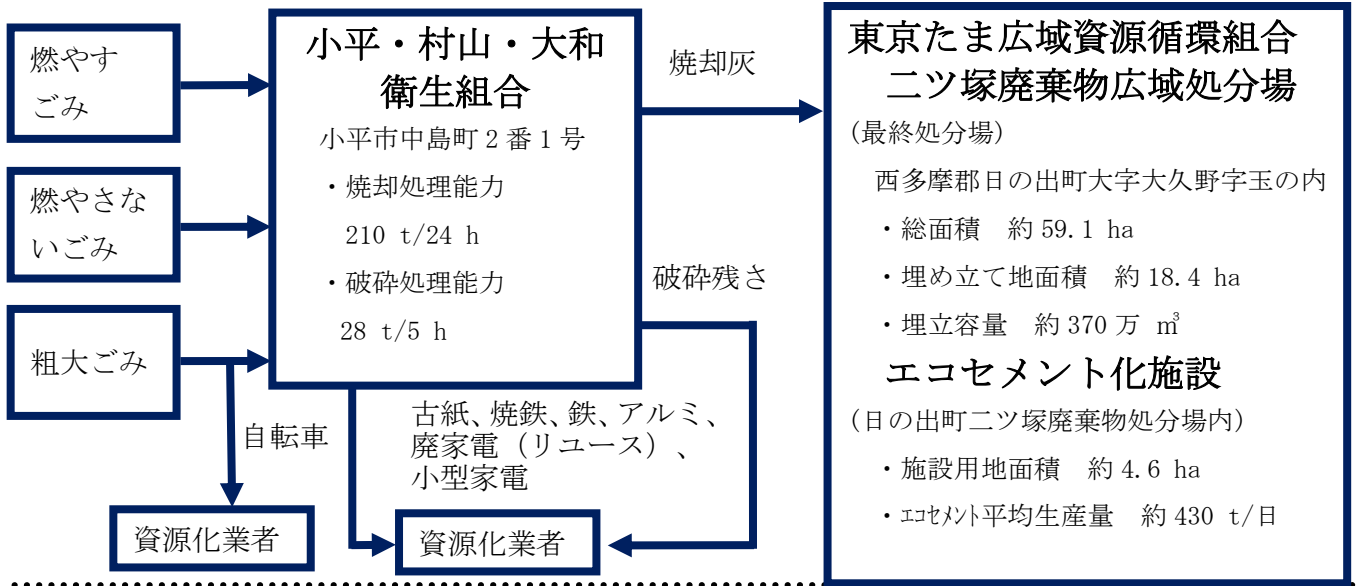
東京市町村自治調査会が作成している「多摩地域ごみ実態調査」の令和3(2021)年度統計によると、小平市の、集団回収分を除いた、市民一人1日当たりのごみ・資源総量を示した「総ごみ量原単位」は、多摩地域26市中で少ない方からみて10番目となっています。また、総ごみ量のうち、市が収集したごみと資源の総量を示した「収集ごみ量原単位」は、多摩地域26市中で少ない方からみて、17番目となっています。



収集の様子



【資源とごみの処理の流れ】（令和4(2022)年度）



※小平・村山・大和衛生組合のごみ焼却施設建て替え工事に伴い、令和3(2021)年4月より燃やすごみの一部を多摩地域の他の市町村等のごみ焼却施設で処理(広域支援)していただいています。(令和4(2022)年度…柳泉園組合(構成市：清瀬市・東久留米市・西東京市)及びふじみ衛生組合(構成市：三鷹市・調布市)で処理)

3 ごみ処理事業の概要

(1) ごみ処理事業の概要

小平市では、昭和40(1965)年に東大和市、武蔵村山市と共同して小平・村山・大和衛生組合を設立し、ごみの焼却処理等をしてきましたが、その後、ごみ量の増大とごみ質の変化等に対応するため施設の増改築を繰り返し現在に至っています。また、より環境に配慮した清掃工場とするためにバグフィルターや白煙防止装置の設置を実施してきました。

施設の老朽化・旧式化等による課題に対応するため、平成26(2014)年度に「3市共同資源化事業基本構想」を策定し、資源物処理施設や不燃・粗大ごみ処理施設、ごみ焼却施設の整備・更新について方針等を定めました。

その後、平成27(2015)年度に「(仮称)3市共同資源物処理施設整備実施計画」及び「(仮称)不燃・粗大ごみ処理施設整備基本計画」を策定し、平成28(2016)年度より小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設的设计・建設工事を、平成29(2017)年度より不燃・粗大ごみ処理施設的设计・建設工事をそれぞれ開始しました。

そして、平成31(2019)年4月に小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設がしゅん工し、資源物の受け入れを開始しました。また、令和2(2020)年3月に不燃・粗大ごみ処理施設がしゅん工し、同年4月より稼働を開始しました。現在は、(仮称)新ごみ焼却施設の整備を進めており、稼働予定は令和7(2025)年度となっています。

ごみの最終処分地は、昭和55(1980)年に東京都三多摩地域廃棄物広域処分組合(現・東京たま広域資源循環組合)を設立し、昭和59(1984)年から日の出町の谷戸沢最終処分場で埋め立てを開始し、平成10(1998)年には埋立が終了しましたが、続いて同じ日の出町に二ツ塚最終処分場を建設し、現在組織市25市1町のごみを搬入しています。また、二ツ塚最終処分場の延命化及び資源の再利用化を目的として、焼却灰をセメントにリサイクルする「エコセメント化事業」に取り組んでおり、現在、焼却灰すべてがエコセメントとして、利用されています。

市では、平成5(1993)年度に市内全域での資源の分別収集を行うため収集日の変更を実施し、平成8(1996)年度には粗大ごみを有料としました。また、平成10(1998)年度には収集日を再度変更して排出抑制と資源化の強化に取り組み、平成12(2000)年10月には事業系ごみの全面有料化を実施する等、自己処理の徹底、ごみの排出抑制、資源の有効利用の促進はもとより、中間処理施設への負担軽減や最終処分場への搬入量の減量化に努めてきました。

一方、平成16(2004)年8月より小平市粗大ごみ受付センターを開設し、受付日時の拡大等のサービス向上を図るとともに、受付業務の迅速化、効率化を図り、平成17(2005)年11月から、インターネット受付を開始しました。

平成19(2007)年4月には、小平市清掃事業協同組合と「災害時におけるごみ、し尿、がれきの処理活動等の応援に関する協定書」を締結し、災害時の協力体制を整えました。

平成 21(2009)年度には、市と清掃事業協同組合で「新型インフルエンザに係る業務継続計画」を作成しました。そして、平成 28(2016)年度には、小平市清掃事業協同組合と高齢者等の見守りに関わる協定を締結しました。

令和元(2019)年度には、家庭ごみ有料化及び戸別収集へ移行しました。

今後も、廃棄物の発生抑制、繰り返し使う再使用の推進、そして資源としての再利用やエネルギーとしての利用に努め、さらに再利用ができない物については環境に配慮した適正な処理をする等、循環型社会の構築に向けて市民、事業者、行政が一体となって、持続可能な施策の取組や新たなごみ減量策を行っていかねばなりません。そのため、令和 5(2023)年 3 月には、令和 14(2032)年度までの市の廃棄物行政の根幹となる、小平市第四次一般廃棄物処理基本計画を策定しました。

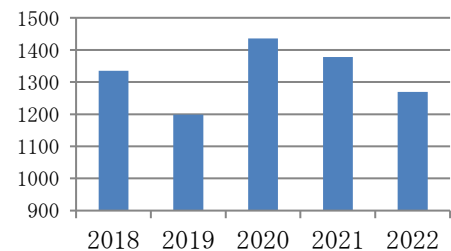
(2) 粗大ごみ収集

粗大ごみの受付件数は、新型コロナウイルス感染症感染拡大によるステイホームなどの新しい生活様式の中、家の中の整理を行う家庭が増え、令和 2(2020)年度には大きく増加しましたが、令和 3(2021)年度以降は受付件数、収集量ともに前年を下回り、落ち着きを取り戻しました。なお、年間の傾向を月別にみた場合、年末の大掃除の 12 月や大型連休がある 5 月が多い傾向にあります。

①粗大ごみ収集年度別推移

年度	粗 大 ご み			
	受付件数 (件)	対 前年比	収集量(t)	対 前年比
2018	59,640	18.5%	1,318	22.2%
2019	53,522	-10.3%	1,199	-9.0%
2020	69,332	29.5%	1,436	19.8%
2021	66,982	-3.4%	1,374	-4.3%
2022	65,203	-2.7%	1,269	-7.6%

収集量(t) 粗大ごみ収集量の推移



②粗大ごみ等処理受付件数(令和 4(2022)年度月例)

	(単位：件)		
	収 集	臨 時	合 計
4月	5,363	1	5,364
5月	5,901	2	5,903
6月	5,250	0	5,250
7月	5,174	0	5,174
8月	5,628	0	5,628
9月	5,317	2	5,319
10月	5,723	3	5,726
11月	5,463	1	5,464
12月	6,021	1	6,022
1月	5,031	0	5,031
2月	4,622	2	4,624
3月	5,710	4	5,714
合 計	65,203	16	65,219



収集された粗大ごみ

(3) 不法投棄・動物の死体処理

不法投棄の品目は多岐にわたり、分別されていない未分別ごみ、敷物、板などがあります。動物の死体は、飼い主がいない猫が多く処理されています。

年度	不法投棄		動物の死体（収集回数）						計
	家電リサイクル （個）	その他 （個）	犬		猫		その他		
			飼	飼い主が いない	飼	飼い主が いない	飼	飼い主が いない	
2020	3	166	7	1	19	118	4	193	342
2021	2	138	10	3	14	125	0	187	339
2022	0	97	8	0	20	80	6	207	321

※家電リサイクルとは、エアコン、テレビ、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機、衣類乾燥機で市では収集していない品目になります。

(4) ごみ投入実績比較

燃やすごみは、ごみ全体の約9割を占めています。

(単位：t)

	収集	持込	計	割合
燃やすごみ	27,053	4,094	31,147	91.6%
燃やさないごみ	1,549	27	1,576	4.6%
粗大ごみ	1,263	6	1,269	3.7%
計	29,865	4,127	33,992	100.0%
%	87.9%	12.1%	100.0%	-

※持込には、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第7条の許可業者、相対契約、臨時持込による処分が含まれます。

※端数処理のため割合の計が一致しないことがあります。

(5) 家庭ごみ組成分析調査結果 | 令和3(2021)年度

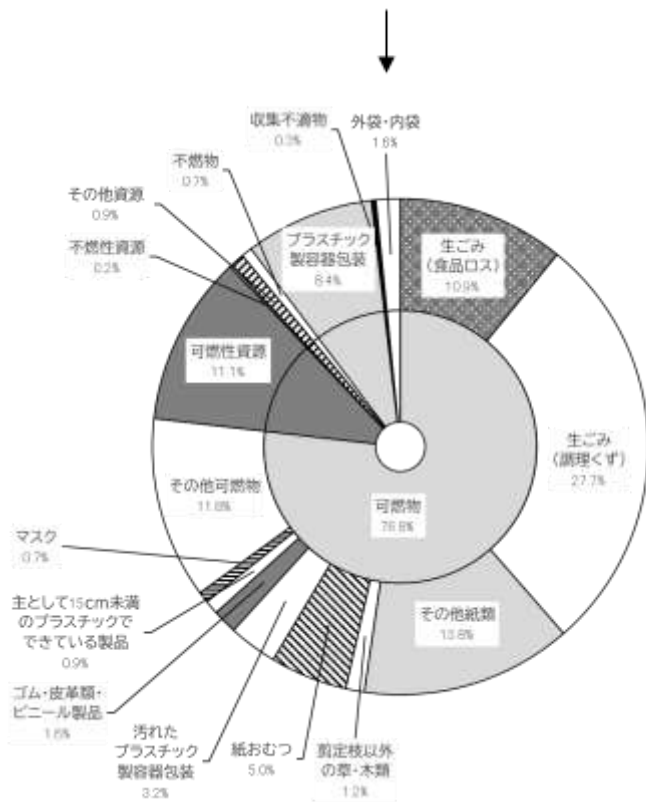
燃やすごみの中には21.6%、燃やさないごみの中には15.9%、プラスチック製容器包装の中には21.2%の分別不適物が入っており、適正な分別をしていく必要があります。

(単位：%)

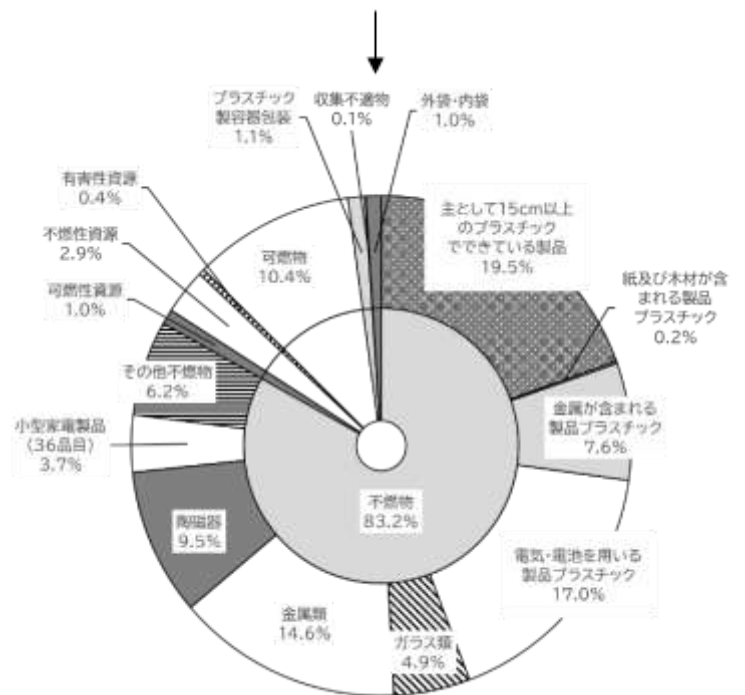
	可燃性 資源	不燃性 資源	有害性 資源	その他 資源	可燃物	不燃物	プラスチック 製容器包装	収集 不適物	外袋・ 内袋	適正 分別	分別 不適物
燃やすごみ	11.1	0.2	0.0	0.9	76.8	0.7	8.4	0.3	1.6	78.4	21.6
燃やさないごみ	1.0	2.9	0.4	0.0	10.4	83.2	1.1	0.1	1.0	84.1	15.9
プラスチック製容器包装	0.8	1.4	0.0	1.0	12.7	5.2	75.1	0.0	3.7	78.8	21.2

※ごみ中の水分を含んだ状態での分析（湿ベース）

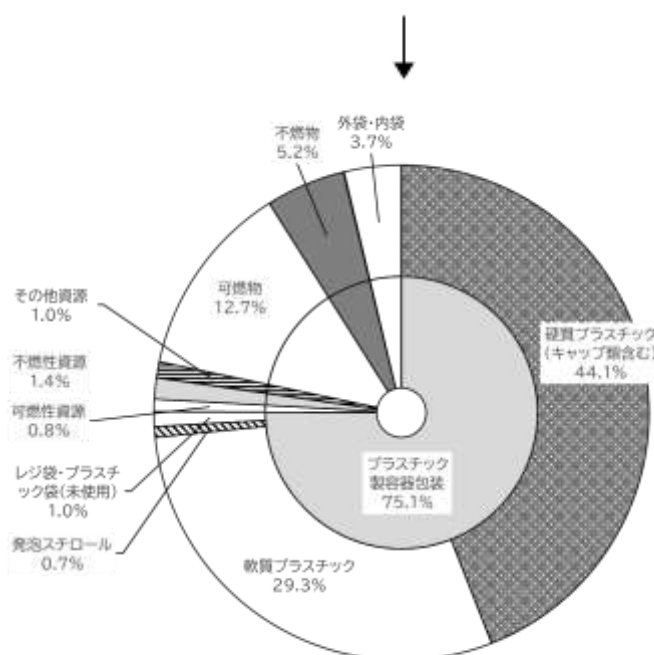
燃やすごみ組成



燃やさないごみ組成



プラスチック製容器包装組成



(6) ごみ処理施設

①中間処理施設

小平市のごみは、小平市・東大和市・武蔵村山市の3市で構成される小平・村山・大和衛生組合によって処理されています。

名称	小平・村山・大和衛生組合		
所在地	小平市中島町2番1号		
電話番号	(042)341-4345		
敷地面積	約19,780 m ² (組合所有 約9,540 m ² 、小平市借地 約10,240 m ²)		
施設概要	不燃物積替場	昭和43(1968)年12月竣工 約690 m ²	
	廃水処理施設	昭和50(1975)年3月竣工 51 m ³ /24 h	
		昭和63(1988)年3月竣工 無放流化に改良 令和3(2021)年3月 運転終了	
	粗大ごみ処理施設 (破碎選別施設)	昭和50(1975)年10月竣工 75 t/5 h	
		平成10(1998)年3月選別装置改造 令和2(2020)年3月 運転終了	
	不燃・粗大ごみ処理施設 (破碎選別施設)	令和2(2020)年3月竣工 28 t/5 h	
	焼却施設 (3号炉)	昭和50(1975)年3月竣工 150 t/24 h 平成2(1990)年11月 大規模改造 平成15(2003)年3月バグフィルター設置 令和2(2020)年12月 運転終了	
		炉形式	全連続燃焼式ストーカ炉
		工場棟	鉄筋コンクリート・鉄骨造 地上3階、地下2階
		煙突	溶接鋼板製 地上59.5 m
	焼却施設 (4・5号炉)	昭和61(1986)年11月竣工 平成15(2003)年3月バグフィルター設置 105 t/24 h×2炉	
		炉形式	全連続燃焼式ストーカ炉
工場棟		鉄筋コンクリート・鉄骨造 地上4階、地下1階	
煙突		外筒：鉄筋コンクリート造 内筒：鋼板製 地上100 m	
設立の経緯	昭和35(1960)年	当時の小平町が現在の場所をごみ処理施設に都市計画決定し、焼却場を建設	
	昭和40(1965)年 2月1日	3市による一部事務組合を設立、共同処理事業に移行。小平市施設を引継ぎ処理	



小平・村山・大和衛生組合の外観

みんなでごみを
へらすンジャー！！



②小平・村山・大和衛生組合投入実績表

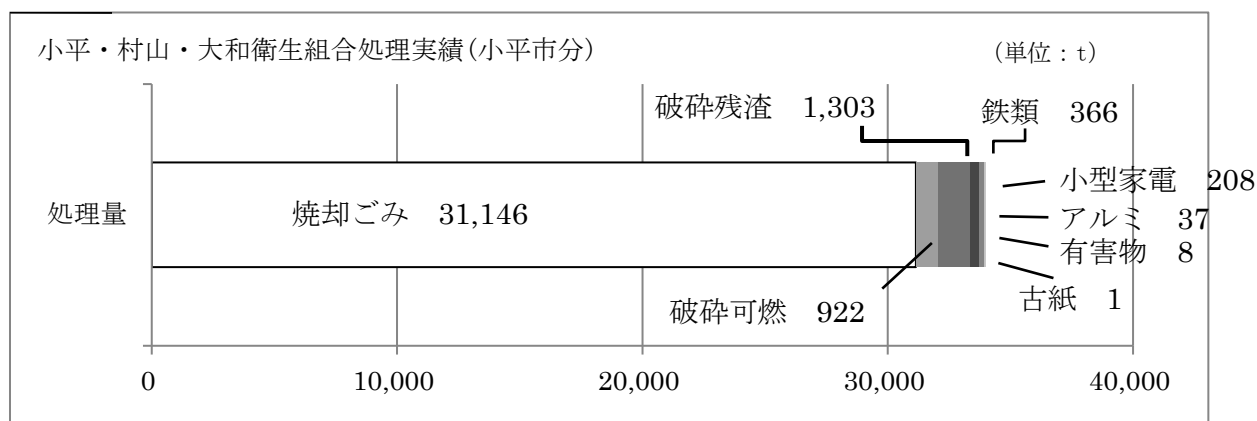
3市のごみの投入量は下表のとおりとなっています。また、投入割合は、小平市が53%、東大和市が24%、武蔵村山市が23%となっています。

(単位：t)

年度	小平市		東大和市		武蔵村山市		合計	内訳(3市分)					
	投入量	投入割合	投入量	投入割合	投入量	投入割合		燃やすごみ		燃やさないごみ		粗大ごみ	
								量	割合	量	割合	粗大	割合
2018	40,601	57%	15,173	21%	15,487	22%	71,261	62,099	87%	7,262	10%	1,900	3%
2019	33,588	51%	15,753	24%	16,339	25%	65,680	60,436	92%	3,290	5%	1,954	3%
2020	35,216	52%	16,094	24%	16,340	24%	67,650	61,632	91%	3,756	6%	2,262	3%
2021	34,681	53%	15,365	23%	15,803	24%	65,849	60,323	92%	3,401	5%	2,125	3%
2022	33,992	53%	15,036	24%	14,884	23%	63,912	58,689	92%	3,210	5%	2,013	3%

※端数処理のため、小平・村山・大和衛生組合公表の数字とは異なる場合があります。

※小平・村山・大和衛生組合施設建て替えに伴い、一部のごみを他施設にて搬入・処理しています。



焼却量 32,068 t = 焼却ごみ 31,146 t + 破碎可燃 922 t

焼却残渣(焼却灰) 3,333 t →エコセメント化(埋立処分量なし)

破碎残渣 1,303 t →資源化

③小平・村山・大和衛生組合ダイオキシン類の測定結果

令和4(2022)年度のダイオキシン類の測定結果は、全ての炉で国の基準値を下回っています。

	測定項目	排出ガス (煙突)	焼却灰	ばいじん	排水
	(単位)	(ng-TEQ/m ³ N)	(ng-TEQ/g)	(ng-TEQ/g)	(pg-TEQ/l)
	基準値	1	3	3	10
4号炉	測定日：R4.7.20	0.0002	0.0020	0.21	0.01
5号炉	測定日：R4.9.7	0.0130	0.0053	0.11	

※測定結果は、コプラナーPCBを含んだ値です。

※1 ng(ナノグラム)は10億分の1グラムです。

※1 pg(ピコグラム)は1兆分の1グラムです。

※TEQは、毒性等量のことです。ダイオキシン類の量をダイオキシン類の中で最も毒性の強い2,3,7,8-四塩化ダイオキシンの毒性等量に換算した数値です。

※焼却灰、ばいじん(飛灰)、ガス冷却灰ダスト及び汚泥の基準は、薬剤処理等の判断基準です。全ての焼却施設において、薬剤処理を実施しています。

※焼却炉の集じん装置は、バグフィルターです。

④最終処分場

小平・村山・大和衛生組合で中間処理をした後の焼却残渣(焼却灰)は、25市1町共同による東京たま広域資源循環組合でエコセメント化(エコセメントの原料として資源化)を行っています。

名称	東京たま広域資源循環組合		
所在地	西多摩郡日の出町大字大久野 7642 番地		
電話番号	(042) 597-6151		
構成団体	25 市 1 町		
処分場の規模	面積	用地面積	59.1 ha
		開発面積	33.3 ha
		埋立地面積	18.4 ha
		管理施設等面積	14.9 ha
		残存緑地面積	25.8 ha
	埋立容量	全体埋立容量	約 370 万 m ³
廃棄物埋立容量		約 250 万 m ³	
覆土容量		約 120 万 m ³	
埋立進捗率	44.7% (平成 30 (2018) 年度 年間進捗率 0.1%未満)		
エコセメント化施設	施設用地面積	4.6 ha	
	エコセメント平均生産量	約 430 t/日	



エコセメント化施設の全景(平成 30 年(2018)7 月撮影)



エコセメントで造られたベンチ

⑤最終処分場搬入配分量及び実績

小平・村山・大和衛生組合での焼却で発生した焼却残渣（焼却灰）は、東京たま広域資源循環組合(最終処分場)に搬入しています。

		2020年度	2021年度	2022年度
搬入配分量	(焼却残渣・t)	3,720	3,683	3,683
	(不燃物・m ³)	0	0	0
投入実績量	(焼却残渣・t)	3,396	3,371	3,333
	(不燃物・m ³)	0	0	0
搬入配分量に対する貢献量	(焼却残渣・t)	324	312	350
	(不燃物・m ³)	0	0	0
体積換算係数 (m ³ /t)	可燃	0.85	0.72	0.85
	不燃	0.00	0.00	0.00

※広域割当量は、毎年ローリングされるので、市計画量と相違します。

⑥搬入実績

焼却量に対するエコセメント化した量と埋立てで処理された埋立量は、以下のとおりとなっています。

(単位：t)

エコセメント化した量	3,333	埋立量	0
焼却量に対する割合	10.4%	ごみ量に対する割合	0.0%

※焼却量(32,068 t)

※ごみ量(33,992 t)

※端数処理のため、誤差が生じることがあります。

(7) 啓発等看板配布

リサイクルセンター、東部出張所、西部出張所および動く市役所で、下記の啓発等の看板を配布しています。



地区以外禁止

(現在配布のものは居住者以外に変更しています)



ごみ出しルール



品格



持ち去り禁止



不法投棄禁止(1)



不法投棄禁止(2)

(単位：枚)

	2020年度	2021年度	2022年度
地区以外禁止	29	14	11
ごみ出しルール	0	27	24
持ち去り禁止	10	33	1
不法投棄禁止(1)	126	109	51
不法投棄禁止(2)	112	131	82
品格	28	4	1
合計	305	318	170

4 し尿処理事業

(1) し尿処理の概要

小平市は、昭和 40(1965)年度に、し尿及び汚泥の処理を目的として湖南衛生組合に加入しました。その後、公共下水道の敷設の進展と共に処理量は減少しています。

また、施設の老朽化も進んだことから、処理量の減少と併せて、効率的な施設運営を図るため、平成 20(2008)年度に前処理希釈方式による処理能力 6 k1/日の施設に改修しました。

し尿処理量は減少傾向にあるものの、建設現場の仮設トイレや種々の理由のため下水道接続が困難な状況等もあり、今後も、し尿処理が必要になると考えられます。

こうしたことから、湖南衛生組合では、引き続きし尿の共同処理を行うため、平成 26(2014)年度から平成 28(2016)年度にかけて、処理量に見合った新処理施設等の整備、不用施設の解体・撤去及び土地の有効利用を実施する「総合整備事業」を進め、施設を更新しました。

(2) し尿処理施設

名称	湖南衛生組合（湖南処理場）
所在地	武蔵村山市大南 5 丁目 1 番地
電話番号	(042) 561-1551
敷地面積	29,552.72 m ²

(3) し尿等処理量の推移

① し尿処理人口（推計）別内訳

【し尿処理人口（推計）別内訳】 (単位：人)

年度	2018	2019	2020	2021	2022
浄化槽	44	32	31	25	29
し尿	68	65	58	54	54

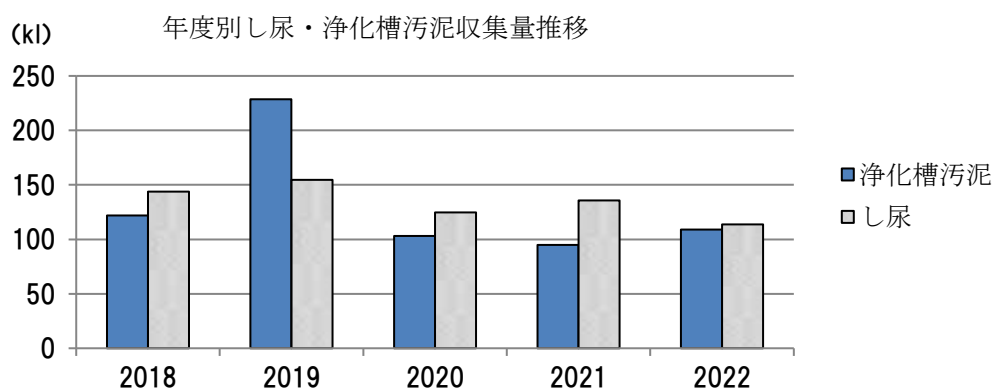
※平成 29(2017)年度より、5 年間以上利用がなかった人数を除いています。

② 年度別し尿・浄化槽汚泥収集量推移

し尿・浄化槽汚泥収集量の家庭系収集量は減少傾向にありますが、事業系収集量はその年の工事件数等によって増減するため、令和元(2019)年度は市内大規模事業所の工事に伴い、一時的に増加しています。

【年度別し尿・浄化槽汚泥収集量推移】 (単位：k1)

年度	2018	2019	2020	2021	2022
浄化槽汚泥	122.0	228.6	103.2	94.9	108.9
し尿	143.8	154.6	124.7	135.7	113.7
総収集量	265.8	383.2	227.9	230.6	222.6
前年比 (%) (総収集量)	△ 22.2	44.2	△ 40.5	1.2	△ 3.5



③年度別汚水収集量推移 | 雑排水・浄化水 (単位: kl)

年度	2018	2019	2020	2021	2022
汚水	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
前年比 (%)	-	-	-	-	-

④湖南衛生組合し尿・浄化槽汚泥搬入実績表 | 年度別・組織団体別 (単位: kl)

	武蔵野市		小金井市		小平市		東大和市		武蔵村山市		合計	
	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合	搬入量	搬入割合
2018	247.8	23%	80.5	8%	265.8	25%	284.0	27%	177.8	17%	1,055.9	100%
2019	253.0	22%	97.7	9%	383.2	34%	248.8	22%	151.8	13%	1,134.5	100%
2020	202.5	23%	74.2	8%	227.9	25%	243.4	27%	151.4	17%	899.4	100%
2021	171.8	21%	76.6	9%	230.6	27%	238.4	28%	125.8	15%	843.2	100%
2022	214.4	24%	76.1	9%	222.6	25%	233.5	26%	144.2	16%	890.8	100%

(4) 浄化槽清掃件数の推移 (単位: 件)

年度	2018	2019	2020	2021	2022
清掃件数	40	132	44	41	53

5 3R 推進事業

(1) 3R 推進事業の概要

小平市では、循環型社会の実現のため、様々な 3R を推進する取組を実施しています。

年度	取組内容
平成元(1989)	モデル地区での資源物の分別収集の開始
平成 3(1991)	コンポスト容器購入費補助(現・食物資源(生ごみ)処理機器購入費補助)制度
平成 4(1992)	協力店での白色トレイ回収の開始 リサイクルフェスティバル実行委員会(旧ごみ減量推進実行委員会)の発足
平成 5(1993)	廃棄物減量等推進審議会の設置 市内全域で、古紙や古布、ビン、カンといった資源物の分別収集を開始 小平市リサイクルセンターがオープンし資源選別作業を開始
平成 6(1994)	廃棄物減量等推進員(愛称:クリーンメイトこだいら)の設置
平成 8(1996)	粗大ごみの有料化 リサイクルセンター増設工事により、ペットボトル再資源化施設及び粗大ごみ再生展示販売施設(リプレこだいら)を建設
平成 9(1997)	全市でペットボトルの分別収集の開始 優良な家具類の再生販売を開始 ペットボトル再資源化施設とリプレこだいらがオープン
平成 12(2000)	事業系ごみの全面有料化
平成 14(2002)	硬質のプラスチック製容器包装の全市収集を開始 剪定枝のチップ化事業を開始
平成 16(2004)	小学校の食物資源(生ごみ)一次処理物を使った堆肥を畑で利用し、その有効性と問題点を検証するモデル事業を開始
平成 20(2008)	落ち葉のリサイクル袋を作成し、希望者には貸出しを実施
平成 22(2010)	食物資源循環モデル事業を開始
平成 25(2013)	小型家電リサイクルのイベント回収及び拠点回収の開始 資源持ち去りの罰則の制定
平成 26(2014)	資源化品目の拡大 小型家電リサイクル法に基づく認定事業者と協定を締結し、宅配便による小型家電の自宅回収サービスを開始
平成 27(2015)	スマートフォン・タブレット端末向けに、ごみ分別アプリの運用を開始 小型家電リサイクルについて、市内図書館 6 か所に回収ボックスを増設
平成 28(2016)	未利用食品の回収を「フードドライブ」と称し、こだいら環境フェスティバルで本格実施
平成 29(2017)	食物資源循環事業の本格実施 小型家電リサイクルにおいて、「都市鉱山からつくる!みんなのメダルプロジェクト」の実施
平成 30(2018)	新リサイクルセンター設計・建設工事完了 ごみ分別アプリを単独版としてリニューアル エコショップこだいら認定制度の制定
令和元(2019)	家庭ごみ有料化及び戸別収集を実施 プラスチック製容器包装全量の分別収集及び資源化の実施 新リサイクルセンターがオープン
令和 2(2020)	株式会社セブン-イレブン・ジャパンとの協定によるペットボトル店頭回収の実施
令和 3(2021)	てまえどり運動の取組の実施 雑がみ袋を全戸に配布(パンフレットに同封)及び作成手順紹介動画を配信
令和 4(2022)	株式会社ジモティーとの協定の締結

(2) 資源回収売払金の推移 | 行政回収

各資源の市況により、売払い金は毎年大きく変動します。

(単位：円)

年度	2018	2019	2020	2021	2022
生ビン	116,055	140,822	144,601	100,536	105,258
カレット(透明)	0	0	0	0	0
カレット(茶)	0	0	0	0	0
カレット(その他)	-1,693,620	0	0	0	0
アルミ缶	36,577,420	29,991,561	32,834,040	59,072,200	63,096,410
スチール缶	4,819,731	3,711,870	4,239,645	7,859,234	7,897,355
新聞紙	8,612,365	8,614,250	4,547,870	5,263,690	8,335,100
雑誌	28,330,860	21,289,580	10,838,130	15,227,540	28,265,455
ダンボール	19,835,295	12,192,310	9,743,300	13,344,180	19,602,820
古布	6,983,865	5,727,637	3,514,145	3,833,140	5,018,790
ふとん	140,020	89,995	115,110	106,230	103,290
紙パック	36,600	54,390	29,750	47,740	50,190
白色トレイ	0	0	0	0	0
キャップ	45,100	3,950	0	0	0
その他	758,170	907,040	178,170	297,510	2,432,760
小計	104,561,861	82,723,405	66,184,761	105,152,000	134,907,428
消費税	8,364,943	7,398,545	6,618,472	10,515,194	13,490,736
ペットボトル*	26,503,602	0	0	0	0
再商品合理化処理金*	156,526	0	0	0	0
小型家電売却金	6,079	0	59,477	104,489	192,788
廃食油売却金	178	1,103	2,425	16,544	13,860
合計	139,593,189	90,123,053	72,865,135	115,788,227	148,604,812

※カレット(その他)の逆有償分については、令和元(2019)年度からカレット残渣処理委託料(歳出予算)として計上しているため、本表に含まれません。

※ペットボトルの有償入札処理金及び再商品合理化処理金は、資源物中間処理施設の稼働に伴い、令和元(2019)年度から、小平・村山・大和衛生組合が扱うようになりました。

(3) リサイクル施設

①小平市リサイクルセンター

施設名称	小平市リサイクルセンター
住所	小平市小川東町5丁目19番10号
用途地域	準工業地域
主要用途	工場
構造・規模	鉄骨造2階建
敷地面積	11,447.00 m ²
建築面積	2,916.31 m ²
各階床面積	1階：2,737.63 m ² 、2階：1,347.47 m ²
延床面積	4,085.10 m ²
処理能力	ビン 12.6 t/5 h、 カン 5.6 t/5 h
建設費	約13億6,267万円
建設年度	平成30(2018)年度
主要機器	供給・搬送コンベヤ 破袋機・小袋破袋機 除袋機 磁選機 アルミ選別機 カンプレス機



リサイクルセンター



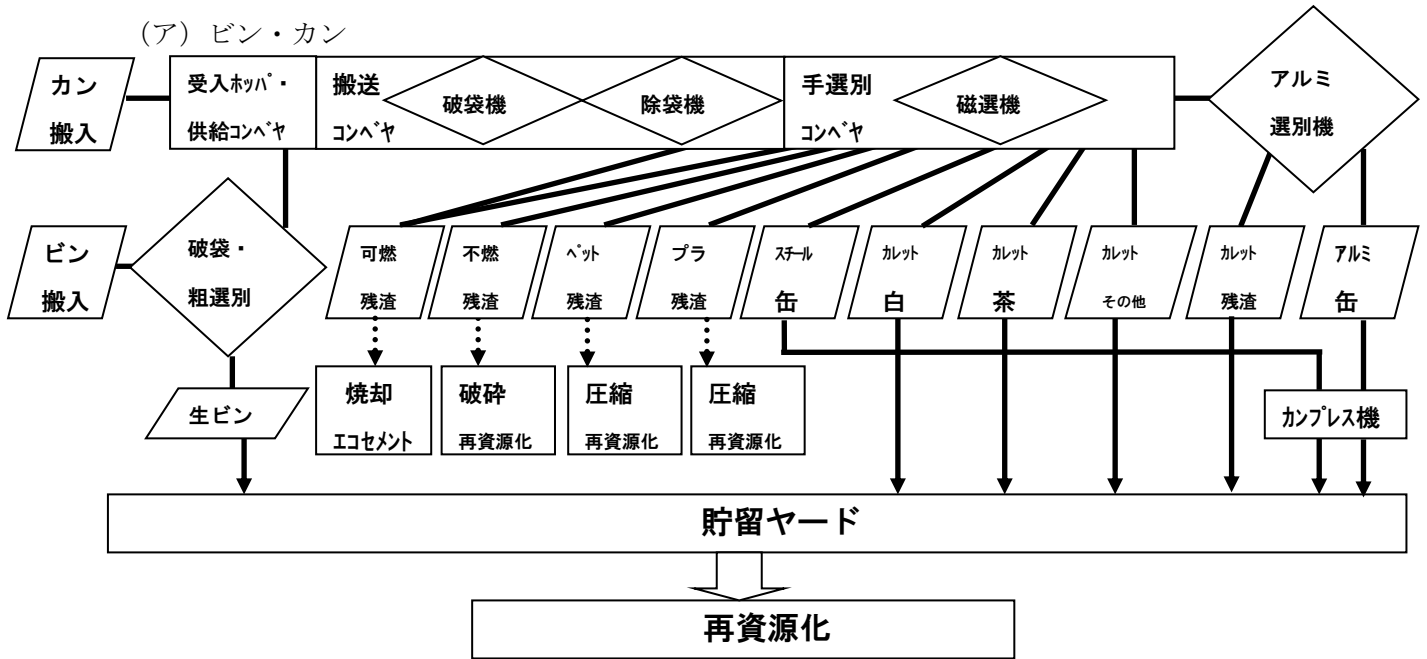
リサイクルセンター広場

小平市リサイクルセンターは、ビン・カンを中心とした資源の選別・圧縮等の中間処理を行う資源化エリアと、資源循環課窓口、各種見学設備、リプレこだいらを備えたプラザエリアにより構成されています。また、旧リサイクルセンターの跡地をリサイクルセンター広場として整備し、令和4(2022)年3月より供用開始しています。

【リサイクルセンター再資源化フロー】

主な資源の処理は以下のような流れとなっており、最終的に再資源化業者に引き渡しを行います。

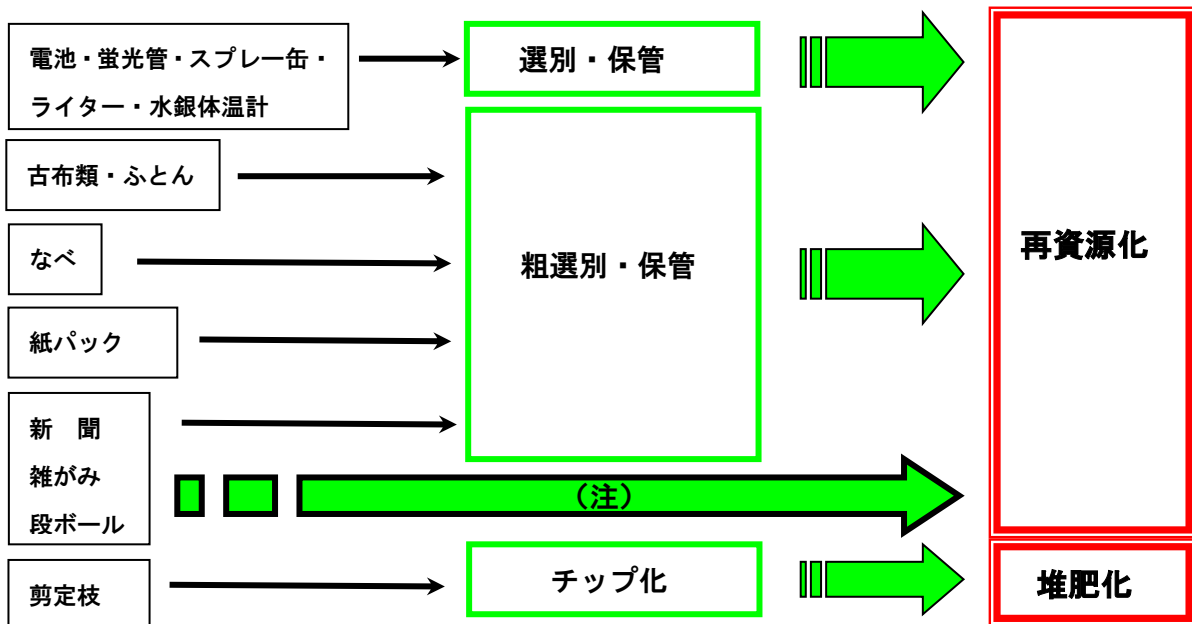
(ア) ビン・カン



※ビン、カンの選別作業は、同一ラインで処理日・時間帯を分けて行っています。

※ ……➡ の処理は、他の施設で行っています。

(イ) その他の資源 (有害性資源、古布類、なべ、紙パック、古紙類、剪定枝)



※古紙類は収集後、リサイクルセンターを経由せずに再資源化業者へ直納しており、市民による直接持込分のみリサイクルセンターで受け入れています(持込分は古紙類全体の約0.2%程度)。

②小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設

施設名称	小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設 (エコプラザ スリーハーモニー)
住 所	東大和市桜が丘2丁目122番地の2
用途地域	工業地域
主要用途	ゴミ焼却場その他の処理施設
敷地面積	4,311.64 m ²
構造・規模	鉄骨造・地上3階建
建築面積	1,878.95 m ²
1階床面積	1,814.52 m ²
2階床面積	577.15 m ²
3階床面積	1,115.90 m ²
延床面積	3,612.62 m ²
処理能力	ペットボトル系列 6.0 t/5 h プラスチック製容器包装系列 17.0 t/5 h
建設費	約25億4,318万円(消費税込み)
工期	平成29(2017)年1月から 平成31(2019)年4月
主要機器	資源物クレーン 資源物供給コンベヤ 破袋機・破除袋機 比重差選別機 手選別コンベヤ 圧縮梱包機 集じん・脱臭・VOC除去設備



資源物中間処理施設の外観



ベール化(圧縮)されたペットボトル

小平・村山・大和衛生組合資源物中間処理施設は、小平市、東大和市、武蔵村山市の家庭などから排出されるペットボトルとプラスチック製容器包装の選別・圧縮・梱包・保管を行う施設です。また、資源の有効利用や資源循環の仕組みを学べる研修室などがあり、環境啓発活動も行える施設となっています。

(4) 資源回収補助金交付状況 | 集団回収

自治会、子ども会、マンション管理組合など地域の団体に行政に頼らず自主的な資源回収を補助する制度です。

① 補助金交付単価額 | 令和4(2022)年度

品目	単価	品目	単価	品目	単価
繊維類	7 円/kg	段ボール	*9 円/kg	カレット	7 円/kg
新聞	*9 円/kg	牛乳パック	9 円/kg	金属類	7 円/kg
雑誌類	*9 円/kg	ビン類	7 円/本	アルミ缶	25 円/kg

※引取業者選定依頼書を提出した場合、新聞・雑誌類・段ボールは6円/kg

② 年度別回収実績

年 度	2018	2019	2020	2021	2022
回収量 (kg)	2,041,516	2,179,079	1,932,111	1,768,516	1,700,203
補助金交付額 (円)	16,234,402	17,250,441	15,149,779	13,918,322	13,375,813
交付団体数 (団体)	123	121	113	107	103

③ 品目別回収量

(単位: kg)

年 度	2018	2019	2020	2021	2022
繊維類	92,722	110,807	106,327	97,973	95,659
紙 類	1,903,359	2,014,808	1,768,641	1,614,078	1,551,321
ビン類	0	0	0	0	0
カレット	116	127	148	44	0
金属類	12,082	15,704	16,652	16,027	15,485
アルミ缶	33,237	37,633	40,343	40,394	37,738
計	2,041,516	2,179,079	1,932,111	1,768,516	1,700,203

④ 令和4(2022)年度 資源回収補助金交付団体数

【交付団体数】

上半期	102 団体
下半期	101 団体



(5) 食物資源循環事業資源化実績

家庭から出る生ごみを分別収集し、堆肥化する事業です。

平成 22(2010)年度から、モデル事業として、毎年 100 世帯程度の拡大を続け、平成 28(2016)年度に参加登録世帯数がおおむね 1,000 世帯となりました。平成 29(2017)年度から事業を本格実施とし、家庭ごみ有料化を契機に令和 2(2020)年度に 1,200 世帯を超え、以降は同規模で継続実施しております。

	2018	2019	2020	2021	2022
参加登録世帯数	1,000	1,000	1,246	1,248	1,253
資源化量(t)	71	82	93	91	86



(6) 食物資源(生ごみ)処理機器購入費補助金交付実績

年度	基数	補助額(円)	補助金交付対象
2018	114	1,986,200	全機種対応 購入金額の1/2
2019	194	2,544,600	上限 30,000円(家庭用) 300,000円(業務用)
2020	150	1,987,000	※処理機器は、日量処理能力が10kg未満のものを家庭用、10kg以上のものを業務用としています。
2021	160	2,549,800	
2022	154	2,686,700	

令和 4(2022)年度 機種別補助交付実績

機種	基数	補助額(円)
コンボスター系機種	22	70,800
ボカシ(EM)セット	7	6,900
電動型(乾燥型)	123	2,591,800
電動型(分解型)	0	0
家庭その他	2	17,200
業務用	0	0
合計	154	2,686,700



(7) 陶磁器食器回収実績

予め日時と場所を定めて実施する拠点回収に加え、平成 31(2019)年 4 月からリサイクルセンターでの常時回収を開始しました。

年度	2018	2019	2020	2021	2022
拠点回収回数(回)	7	6	5	5	6
拠点回収量(kg)	6,759	3,013	4,287	3,840	3,571
常時回収量(kg)	—	11,497	14,083	7,316	10,579
回収量合計(kg)	6,759	14,510	18,370	11,156	14,150

※拠点回収はごみゼロフリーマーケット、環境フェスティバル、リサイクルきゃらばん(東部公園、小川西グラウンド、いなげや小平小川橋店、いなげや小平回田店)で回収したものの合計です。

(8) 小型家電回収実績

「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」は平成 31(2019)年 3 月 31 日で終了しましたが、小型家電の回収は継続し、資源化を行っています。

なお、回収と資源化のタイミングが異なるため、年度内の回収量と資源化量が一致しない場合があります。

年度	2018	2019	2020	2021	2022
回収量(kg)	5,063	7,576	9,650	7,370	5,950
資源化量(kg)	5,630	8,070	8,440	6,610	5,950

※回収方法：市役所、東部市民センター、西部市民センター、リサイクルセンターに加え、中央・喜平・上宿・津田・大沼図書館、なかまちテラス、鈴木公民館、上水新町地域センターに回収ボックスを設置して回収、環境フェスティバル、リサイクルきゃらばん（東部公園、小川西グラウンド、いなげや小平小川橋店、いなげや小平回田店）での拠点回収

(9) リプレこだいら販売実績 | 令和 4(2022) 年度

粗大ごみのうち一部優良なものや撤去された放置自転車の一部を小平市シルバー人材センターの会員が修理し、展示販売しています。

品目	点数	販売金額 (円)	品目	点数	販売金額 (円)
整理タンス	91	410,500	ソファー・マット	118	467,100
その他タンス	145	578,400	ベッド	52	210,700
食器棚	68	361,900	その他	999	1,439,868
レンジ台	29	106,800	修理	56	294,700
本棚・スチール棚	191	529,400	配送	423	761,200
テーブル・座卓	268	930,500	返品	-16	-75,500
机	44	138,900	自転車	143	1,516,340
いす	630	1,435,800	自転車修理	149	429,520
			計	3,390	9,536,128

※(公社)小平市シルバー人材センター資料より

(10) 年賀ハガキ等回収実績

不要になっても、個人情報がかっているはがきは手放しにくいものですが、はがき回収ボックスに投函していただくと、一旦市で預かり、紙類のリサイクル工場資源化されます。

(単位：kg)

年度	2018	2019	2020	2021	2022
郵便局計	420.5	355.0	354.9	376.5	319.0
市役所本庁舎	335.0	295.0	115.0	340.0	131.0
東部出張所	217.7	205.0	205.0	205.0	76.0
西部出張所	109.0	100.0	100.0	100.0	13.0
計	1082.2	955.0	774.9	1021.5	539.0

※郵便局実施期間 暑中見舞いハガキ：8月～9月

年賀ハガキ：1月～2月

6 家庭ごみ有料化及び戸別収集の概要

(1) 家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行の経緯

多摩地域では、高額なごみ処理事業費の削減や最終処分場の延命化といった共通の課題に対応し、ごみゼロ社会を目指すため、東京都市長会が平成 13(2001)年 10 月に、「平成 15(2003)年を目途に全市において家庭ごみの有料化を進める。」との政策提言を行いました。こうした背景から、多摩地域においては、平成 30(2018)年度までに既に 26 市中 24 市が家庭ごみ有料化を実施していました。

小平市においても、平成 26(2014)年 3 月策定(平成 30(2018)年 3 月改訂)の前「小平市一般廃棄物処理基本計画」の中で、家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行を重点施策の一つとして位置付けました。家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行の実施にあたっては、小平市廃棄物減量等推進審議会から、平成 28(2016)年 4 月に、「令和元(2019)年度での実施に向けて、市としての体制を整えた上で、実施内容について十分な検討・準備を進めること。」との答申を、平成 30(2018)年 2 月に、「市民に対して十分な周知を行った上で、家庭ごみ有料化及び戸別収集へ円滑に移行することを希望する。」との答申をいただきました。

小平市では、平成 29(2017)年 4 月に、『「家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行」についての基本方針』を策定し、令和元(2019)年度を目途に家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行を実施するとした方向性を定め、さらに、平成 30(2018)年 3 月に「小平市家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行実施計画」を策定し、平成 31(2019)年 4 月 1 日から家庭ごみ有料化及び戸別収集へ移行しました。

(2) 家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行の検証

令和 5(2023)年 3 月に策定した「小平市第四次一般廃棄物処理基本計画」では、家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行から、4 年が経過したことから、その検証を行いました。

戸別収集については、市民アンケート調査結果において、『以前に比べて、ごみ出しが楽になった』が 49.8%となったほか、好意的な意見が多く見られました。

有料化については、ごみの減量状況から有料化がごみの減量に有効に働いたと捉えられます。

また、市民アンケート調査での市民の受容度、周辺市との手数料の比較から、指定収集袋の手数料額については、現時点において、妥当なものであるとの検証結果を得ています。

